連載

# FACE TO FACE

## Dr. N. Furuyama

## ドクター古山のルックスアップ講座

医療業界の進化は日進月歩で、新たな知見が日々更新されている。これは美容医療の分野も同じ。クリニックの数が増えるにしたがって競争も激しくなり、高度な生き残り戦略が求められるようになってきている。そのなかで着実に成長を果たし、いまや世界トップクラスのクリニックとして知られるようになった自由が丘クリニック。2025年に創設30周年を迎えるのだ。

古山登隆
(ふるやまのぶたか)
日本の美容医療をリードするパイオニア的存在。メスを使わないノンサージェリー施術を得意とし、ボトックスやヒアルロン酸注入、糸によるたるみの治療など、世界トップクラスとして高く評価されており、注入指導医のヘッド・ファカルティとして国内外の美容医療の発展に貢献している

### 近未来の戦略 編

自由が丘を発信地として世界中からファンを惹きつけてやまない自由が丘クリニック。2025年に30周年を迎えるにあたり、今回は、自由が丘クリニックがロングセラーでありつづける秘訣と近未来の戦略についてドクター古山に話をうかがった。ドクターは、世界トップクラスの腕をもつ医師であると同時に、優秀な経営者でもあるのだ。

「美容医療業界は、今まさにレッドオーシャン（競争と淘汰が激しい市場）です。実績があるクリニックでも、経営方針の軸がブレたり、方向性を見誤ってしまうとたちまち競争に巻き込まれてしまう。そのような状況です。競争はすでに国境を越えており、たとえば昨年度は、日本人女性のおよそ20万人が韓国へ渡航し、観光とセットになった美容医療施術ツアーに参加した、というデータもあります」

そのような環境下でも、ドクター古山は本拠地とする自由が丘を拠点に、日本全国へ、そして世界へと自由が丘クリニックの存在を示し、きわめて質の高い医療技術とサービスによって富裕層を中心にファンを増やしてきた。ドクターが挙げる、ロングセラーになるための条件のひとつに「ピークを作らない。ブームを作らない」という考えがある。

「一度ピークに達しブームを迎えてしまうと、後は下降線をたどるだけになってしまいます。そうではなく、常に自己革新を繰り返し、よい意味で発展途上状態であることがロングセラーの条件のひとつだと思います」

この考え方をベースにこれからの市場を考えると、男性の美容医療にチャンスを見いだせるという。

「男性の美容医療には、伸びしろがあります。美容に関しては、これまで男性より女性の方が何歩も先を進んできました。女性は、自分のルックスを良くするためのテクニックをたくさん知っていますし、何より、"より美しくありたい"という好奇心と向上心があります。ミレニアム世代になって、男性にも"見栄えを良くしたい"という欲求が芽生えてきましたが、まだ女性ほど情報や知識が行き渡っていません。また良きロールモデルも登場していません。そこに私は市場の可能性を感じているのです」

昭和の時代には、連日の接待や付き合いでビール腹になったとしても、深夜残業や徹夜マージャンで目の下にクマを作っていたとしても、それはそれで働く男のイメージとして認められていたであろう。しかし、いまはもはや

そういう時代ではない。男性でも身だしなみを整えることがエチケットとして求められるようになったし、くたびれた顔をしたオジサンより洗練としたビジネスパーソンのほうが異性からも同性からも共感をもたれ、信頼されるのは自然な流れだ。また、ポリコレ（ポリティカル・コレクトネス：人種や性別などによる差別や偏見をなくすための考え方）や、過剰なルッキズム（外見至上主義）への反対も時代の流れとして存在する。これは美容医療にとって決して逆風ではない。むしろ偏見がなくなることは、美容医療本来の目的にもかなうし、優秀な医療チームを抱える自由が丘クリニックの強みにも通じる。

「昔のハリウッド女優が美の象徴だった時代は終わり、今では、肌の色で美が規定されることはなくなりました。これは私たちが得意とする"ジャパニーズ・ビューティ"を世界にアピールする追い風になります。同じアジア圏でも、施術効果がわかりやすい"コリアン・ビューティ"は広く海外で認知されています。近年は、タイやインドネシア、ベトナムの美容医療技術も進歩しており、これからさらに広がっていくことが予想されます。そのなかにあって"ジャパン・ビューティ"には、『やり過ぎない』『垢抜けしない』『ナチュラル感を大切にする』という特長があり、そういったテイストを好む患者様も海外にたくさんいます」

この言葉通り、海外から自由が丘クリニックを指名して来日し、施術後、自由が丘クリニックの技術は美容界のエルメスです」というメッセージを残したセレブもいる。

ドクターは、ロングセラーであるためのもう一つのポイントとなるブランディング戦略にも注力している。2024年は、日本独自の美の象徴として盆栽に着目し、"BONSAI AESTHETICS"を提唱したことで世界中の美容医療関係者から絶大な支持を得た。この成功に安住することなく、自由が丘クリニックの思想が伝わりやすくなるための新しいコンセプトも考えている。このコンセプトこそ、男性美容マーケットを切り拓くためのキーポイントではないかと思えるのだ。

「BONSAIにつづくキーワードを試案しているところです。男性の美容医療を考えたときには、SAMURAIやSHOGUNというキーワードも日本的で良いのですが、刀を持って戦う人というイメージも付随してしまうところが悩ましい点でした。そこで、いま私の頭にあるのは、『無作為の作意』という言葉です。これは日本庭園を作り上げる庭師の言葉で、手入れをする庭師の作為が感じられないほど、庭園を自然に仕上げるという意味です。まるで人の手が入っていないかのごとく自然な庭を指します。自然な立ち振る舞いによってにじみ出てくる日本人の美しさ、エレガントさ、上品さがこの言葉につながっていると感じたのです。無作為のようで、じつは相手にどういう印象を与えるかをしっかり計算しつくして完成した美。それは自分の姿を第三者的に俯瞰して見る意識がなければ生まれてこない美しさでもあります」。これまで学会などを通じ、海外を数多く訪れ、世界トップクラスの医師たちともコミュニケーションを取ってきたドクター古山が、その経験をもとに確信しているのは、「日本人の強みは、定量化できないことを敏感に読み取り、実行できる能力にある」ことだという。「それは、『間』とか『気』、あるいは『第六感』と言えるものかもしれません。その場の空気を読みとり、心地よい雰囲気を作れる。無作為の作意によって育まれた独自の美意識や感性こそが、今後世界を驚かせるエッセンスになり得るし、同時に男性美容医療の世界を切り拓くうえでも必要なコンセプトではないかと感じているのです」

ドクター古山が提唱する「無作為の作意」このつづきは「男っぷり」を特集する次号でたっぷりお届けしよう。

## BONSAIにつづくキーワードは、「無作為の作意」という言葉です。



取材協力：自由が丘クリニック tel. 0800・808・8200 https://jiyugaokaclinic.com/